

11月1日号の「広報もりおか」では「盛岡城を探る」という連載の中で、盛岡城の移築建物等調査について取り上げています。今回はその番外編として、そこでは載せきれなかった情報をプラスしてお届けします。ぜひ、広報と併せてお楽しみください！

「彦蔵」は盛岡城の土蔵で、今も城跡内に残っている唯一の建造物です。建築年代は江戸時代中期と考えられています。現在は盛岡城跡公園南側の管理事務所の方に建てられています。元々はそこより少し西側の市道沿いにありました。道路拡幅に伴い平成元(1989)年3月に米内蔵の跡地に曳家されました。



盛岡城の移築建物等

廃城となった城郭建物等の移築や部材の再利用による建築事例は、全国的に多々あります。盛岡城についても同様の伝承があり、以下の表が、かつて城内にあった建物を移築・再利用したと伝わる主な建築物等の一覧です。左に示した大まかな位置図からもわかるように、これらの建築物は市内外に広く存在しています。現在の盛岡城跡付近だけでなく、遠方にも移築等の伝承が残っていることから、市内の様々な場所に、盛岡城の一部が息づいている可能性があらることが窺えます。

これ以外にも、盛岡城の払下げが行われた時期に建築された建物や、情報提供があった建物などを含め、所有者のご協力をいいただきながら、随時調査を進めています。



Table with 3 columns: 旧建物名称・旧位置 (Old building name/old location), 現在の名称(移築場所) (Current name (relocation site)), and 備考 (Remarks). It lists various buildings like '勘定所建物' and '城門' with their current locations and historical notes.



↑ 現存移築または部材を使用した建築物等一覧&位置図(口伝・伝承を含む) ※表は「史跡盛岡城跡保存活用計画」より

移築等の手法は、このようなのはるか昔から存在していました。ここからは、先人たちが限られた資源を大切に、「古き良き」という価値観を重んじてきた歴史が感じられます。その積み重ねにより、古くからの建物等は脈々と受け継がれ、現代の暮らしの中に溶け込みながら存在し、今ここに生きる私たちが往時と同じものを身近に見ることを可能にしているのです。



↑ 棟札(清水寺)

調査って...?

移築建物等の調査といっても、現地における確認だけではありません。現物を確認することにより、その建築物や部材等が移築・改変されたという事実は把握できますが、それが「盛岡城の建物であった」と断定するには、決め手に欠けます。よって、その根拠といえるものを探すことも必要です。日記や帳簿、由緒書きなど、移築・払下げが行われた事実が記載された文書や、登記簿の建物台帳などから、根拠となる事実がないかどうか調べます。

盛岡城小噺

第6話

#その石垣を愉しむ

前回、盛岡城の石垣には様々な積み方があるとお伝えしましたが、その主なものは、「乱積(らんづみ)」と「布積(ぬのづみ)」の2つの積み方です。

「乱積」は、不揃いな石材を組み合わせる不規則に積んでいく技法で、その中でもほとんど加工していない自然石を積み上げる技法を「野面積(のづらづみ)」といいます。これが、盛岡城で見られる一番古い石垣の積み方です。「布積」は、横方向の列が揃うように石材を積む技法のことで、盛岡城では17世紀後期頃からの石垣で確認できます。基本的には加工具が多いほど新しい石垣といえるため、その積み方から築造時期が推測できます。



また、石垣の中には「矢穴(やあな)」と呼ばれる四角形の穴が並んでいる石が見られます。これは、石工が大きな石を割るためにあけた穴で、その大きさは時期によって異なります。



この技法によって割られ、二個になった石を合わせて「双子石(ふたごいし)」と言っていますが、盛岡城の石垣にはこの双子石が多く使われています。城跡内を歩きながら、矢穴や一対となる双子石を探してみるのも一興です。

石垣にはたくさんの愉しみ方があり、それを少し知るだけで、そこには多くの発見があります。皆様もぜひ盛岡城の石垣を堪能してみてください。

盛岡城復元調査推進室の取組の詳細は、市ホームページに掲載しています。盛岡城に由来があると伝わる資料や建物等に関する情報などありましたら、盛岡城復元調査推進室(019-613-7956)まで、情報提供をお願いします。

